

早刈り向け良質いぐさ品種「夕凧」の畳表製織時の適正加湿量

「夕凧」(系統名:有明5号)の製織時の加湿水分量は岡山3号より多め(14~16%)が適当である。

農業研究センターい業研究所加工研究室(担当者:森崎和義)

研究のねらい

奨励品種「夕凧」は「ひのみどり」より前に収穫しても岡山3号に比べ部分変色茎が少なく、硬い感触の良質畳表が製織可能あるが、茎が硬く畳表がガサ付く等の特性あることから、製織時の加湿量を明らかにする。

研究の成果

- 1.長茎(長い)を使用した麻経系等畳表は、加湿量が少ないと葎面のガサ付きやい切れ、ふくれ等が発生しやすいので、加湿量を標準の14%やや多めの16%程度で製織する必要がある。
- 2.中茎(中い)等の短いい草を使用した綿経畳表は、加湿量が過多になると色調が劣る(カシ落ち)ので、加湿量は標準の14%と同等からわずかに多い程度で製織する必要がある。

普及上の留意点

- 1.い業研究所で栽培した平成18年産早刈りい草を使用して製織したものである。
- 2.製織に当たっては「畳表加工技術改善マニュアル」を参考に季節、天候に合わせて加湿量を調整する。

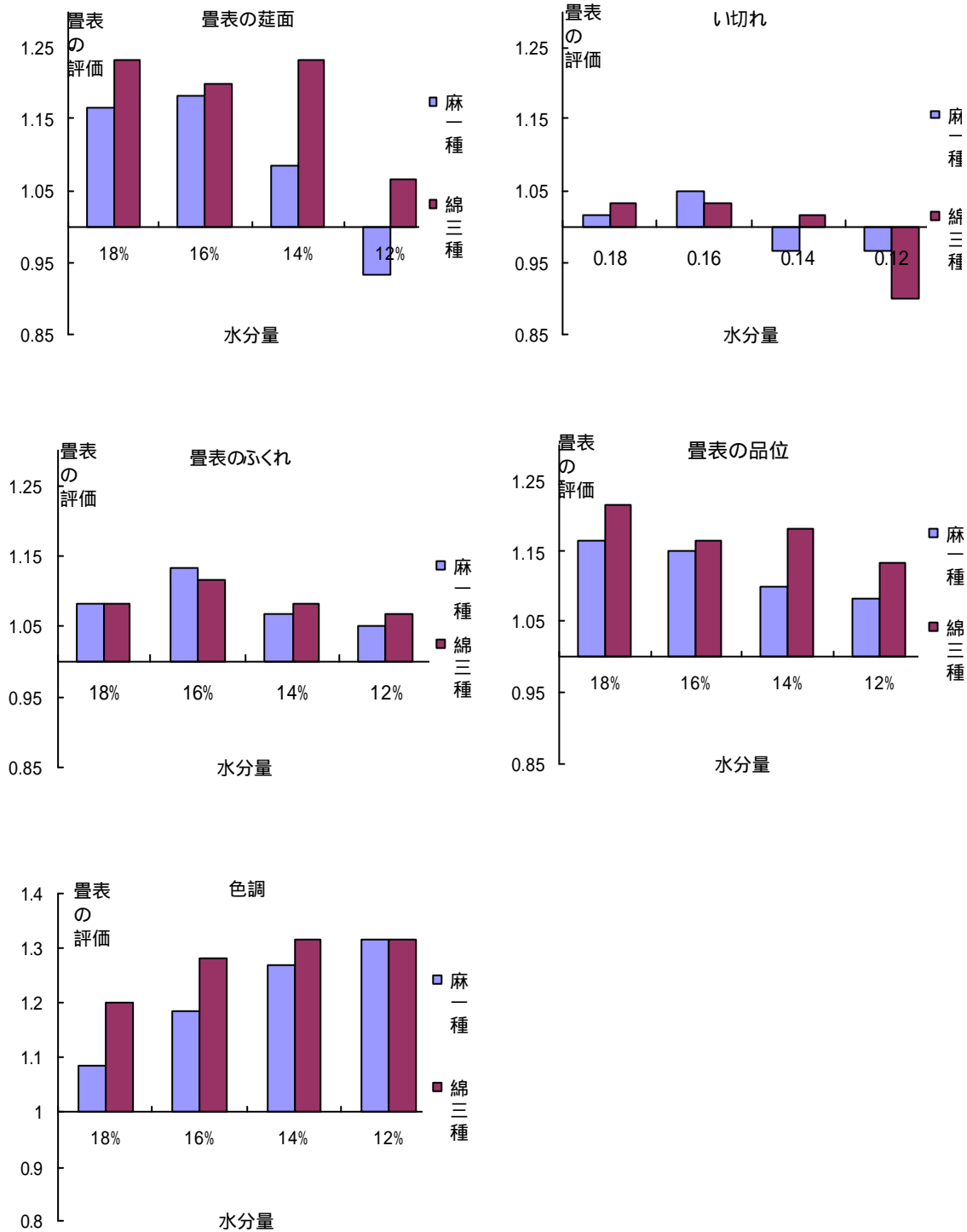


図1 沓表の加工時加湿量別品質評価

い業関係者 12名により、岡山 3号を 14% で加湿した沓表を標準 (1.0) とし、品質の優れるものを高く、品質の劣るものを低く評価配点した。